〈資料〉

鳥取短期大学司書課程の現状と受講生の意識調査

長　岡　絵里佳・西　尾　　肇

Erika NAGAOKA, Hajime NISHIO :
A Survey on Students' Condition and the Current Status of
Librarian Training Courses at Tottori College

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要　第78号　抜刷

2019年 1月

〈資料〉

鳥取短期大学司書課程の現状と受講生の意識調査

長　岡　絵里佳[1]・西　尾　　肇[2]

Erika NAGAOKA, Hajime NISHIO : A Survey on Students' Condition and the Current Status of Librarian Training Courses at Tottori College

鳥取短期大学司書課程の充実・発展をめざし，司書課程の現状を整理し，受講生の意識調査を行った．1 年生に対する本や読書についての意識調査によって，本好きな学生たちの読書傾向が把握でき，全受講生対象の意識調査では，資格を取得する理由や図書館，司書のイメージが明らかになった．

キーワード：司書　学生　意識調査　読書　書店　図書館

はじめに

鳥取短期大学の司書課程は，全学科・専攻が取得できる科目であり，特別科目として開講されている．特別科目は卒業単位にはならないため，2 年間で資格を取得するには，受講生は司書資格を取得する覚悟と意欲を強く持っているものと期待される．しかし，何年か司書科目を担当するにつれて，学生の関心や能力には幅があり，誰もが司書の資格を必ず取ろうという意欲があるわけではないと感じるようになった．

近年，図書館の民間委託や指定管理の動きや職員の非正規化など，図書館への風当たりが強い状況である．幸い山陰両県では図書館事業に力を入れているが，司書の資格を取得しても，必ずしも就職に結びつくわけではないし，教員の立場としても，優秀な学生に対して非正規の司書の仕事は薦めづらい現実である．もちろん正規の司書に就く方法もあるが，公務員試験等を受けなければならず，早い段階からの準備が必須になる．これまで何人かの学生たちが挑戦しているが，残念ながらなかなか実を結んでいない．では，司書資格を履修する学生たちは何を考え，何を期待し受講しているのだろうか．

また，司書の授業では，利用者に対するサービスや，本の紹介，絵本の読み聞かせなど，人と接する仕事であることを説明し，コミュニケーションが必要だと強調しているが，あまり実感が伴っていない学生が見受けられる．公共図書館でも学校図書館でも，今後はよりいっそう利用者の要望を聞き，ニーズにあったサービスを提供することが重要になるが，学生たちは静かな図書館や司書のイメージが強いように思われる．もし，旧来の図書館や司書のイメージのまま実際に司書として働くことになると，自分のイメージと実際の環境とのギャップに戸惑うことになる．学生たちは，図書館や司書に対してどのようなイメージをもち学んでいるのだろうか．

そこで，司書の受講生の意識調査を行い，これまで学生たちと話したり，観察したりすることで，感覚的につかんでいた学生の実態をより明確にしたい．そのことによって，授業の質の向上につなげ，より適切な指導を検討し，実施したいと考える．

鳥取短期大学では，国際文化交流学科の学生を対象に，2018（平成 30）年度から学校司書の科目を開設し，学校図書館について専門的に学ぶことがで

1　鳥取短期大学国際文化交流学科
2　鳥取短期大学非常勤講師

きるようになった．学校図書館への注目はますます高まっており，司書科目の中でも学校図書館や学校司書に関する知識･技能を扱う必要性を感じている．学生の実態の把握は，今後の本学の司書課程の教育を考えるうえでも重要である．

本報告では，まず，鳥取短期大学の司書課程の現状を整理する．次に，1年生を対象に行った本や読書についての調査の結果と，1，2年生を対象に行った意識調査の結果を報告する．

1．鳥取短期大学司書課程の現状

鳥取短期大学では，現在，国際文化交流学科，生活学科（情報・経営専攻，住居・デザイン専攻，食物栄養専攻），幼児教育保育学科の5つの学科・専攻すべての学生が司書課程を履修することができる．また，鳥取県で唯一の司書課程であるため，単位互換制度を利用し鳥取大学等の学生が特別聴講生として履修したり，社会人などが科目等履修生として履修したりすることも可能である．科目等履修生の中には，仕事の関係上，本学の司書課程だけでなく，他大学の夏期講習や通信課程で履修し，司書の資格を取得する人もいるが，多くの学生は，本学で開講している13科目24単位を，開講している順序で受講し2年間で修め，資格を取得している（表1）．

司書課程の授業は，月曜と金曜の5限目（16：25～17：55）のほか，夏期・冬期・春期の休業期間と土曜日に集中講義の形式で開講している．司書課程の担当教員は，専任1名，学内の兼任1名，非常勤3名の計5名が担当している．5名のうち4名は，大学図書館，公共図書館，学校図書館での実務経験があり，経験に基づく実践的な授業を展開している．

2016年11月に通知された「学校司書のモデルカリキュラム」を受け，2018（平成30）年度から，国際文化交流学科に学校司書の科目が導入された．それに伴い，「図書館情報技術論」，「図書館情報資源概論」，「情報資源組織論」，「情報資源組織演習」の4科目は，司書科目だけでなく学校司書の科目としても位置付けられた．4科目の内容は大きく変わらないが，このことをきっかけに，司書科目全体として，学校図書館や学校司書にも触れるように取り組み始めているところである．

表1　司書科目教育課程表（2018年度）

区分	科　目	担当	単位数 必修	単位数 選択	時間数	授業方法	週時間数 H30年度開講 一年次 前期	週時間数 H30年度開講 一年次 後期	週時間数 H31年度開講 二年次 前期	週時間数 H31年度開講 二年次 後期	備　考
司書講習科目	生涯学習概論	専任	2		30	講義	2				夏期集中
	図書館概論	専任	2		30	講義	2				月(5)
	図書館制度・経営論	非常勤	2		30	講義			2		月(5)
	図書館情報技術論	専任	2		30	講義		2			冬期集中
	図書館サービス概論	非常勤	2		30	講義		2			月(5)
	情報サービス論	専任	2		30	講義		2			金(5)
	児童サービス論	兼任	2		30	講義				2	月(5)
	情報サービス演習	非常勤	2		60	演習		4			土曜集中（10月，11月），春期集中
	図書館情報資源概論	非常勤	2		30	講義	2				金(5)
	情報資源組織論	非常勤	2		30	講義			2		金(5)，夏期集中
	情報資源組織演習	非常勤	2		60	演習			2	2	夏期集中，冬期集中
	図書館基礎特論	－		1	15	講義					開講せず
	図書館サービス特論	専任・非常勤		1	15	講義			1		土曜集中（4月）
	図書館情報資源特論	－		1	15	講義					開講せず
	図書・図書館史	専任		1	15	講義	1				夏期集中
	図書館施設論	－		1	15	講義					開講せず
	図書館総合演習	－		1	30	演習					開講せず
	図書館実習	－		1	45	実習					開講せず
計			22	7			7	10	7	4	修了単位24単位以上

受講生は，自分の所属する学科・専攻の専門教育科目での勉強に加えて司書科目を受講する必要があり，栄養士をめざす食物栄養専攻の学生や，保育士と幼稚園教諭の資格取得をめざす幼児教育保育学科の学生は実習も多く，司書科目の履修は少ない傾向にあった．例年，国際文化交流学科の学生の履修が多いが，最近では，幼児教育保育学科の学生も多くなってきている（表2）．

しかし，授業を受けるにつれて，履修をやめる受講生も多い．1年の前期に50名程度が履修しても，最終的に資格を取得する人の数は20～30名に落ち着く傾向にある（表3）．履修を辞める理由としては，学科・専攻の学びや資格取得に集中したいから，司書の学びが予想していたものと異なっていたから，ここまで大変だとは思わなかったからといったものが多いようである．

鳥取短期大学では，全学科・専攻を対象に司書課程についてのオリエンテーションは実施しておらず，各学科・専攻に説明は任されている．希望者は初回の授業に出て履修を決めるスタイルである．そのため，「図書館概論」の初回の授業で，司書資格の取得方法や司書課程の概要について説明を行っている．とくに受講が厳しいことを強調したためか，2014年度や2015年度は，履修登録者が例年よりも減っている．しかし近年，受講が厳しくても挑戦したいのか，あまり現実を受け止めていないのか，あるいは，すでに教科書を買ってしまったからか，説明を聞いてもとくに履修者の減少はみられなくなった．

2014年度と2015年度は，図書館概論の履修登録者数が他の年度と比べて少ないが，最終的に資格を取得した数をみると，他の年度とあまり大差がなくなっている．表4のように差を比べると，2014年度と2015年度は，他の年度よりも差が少なく，むしろ正常な値に思われる．履修前のオリエンテーションについて方法や内容を検討し，早期に学生の意識づけを行うこと，履修を続ける中で適切な支援を行うことが必要であろう．

表2　図書館概論（1年前期）の履修登録者数の変化

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
国際文化交流学科	16	8	13	16	13	16
生活学科　情報・経営専攻	3	3	2	9	5	7
生活学科　住居・デザイン専攻	7	3	3	1	4	5
生活学科　食物栄養専攻	6	1	3	1	7	5
幼児教育保育学科	17	5	4	17	16	19
特別聴講生	4	0	1	2	1	0
科目等履修生	0	2	1	0	2	2
合計	53	22	27	46	48	54

表3　司書資格取得者数の変化

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
国際文化交流学科	12	11	7	9	14	
生活学科　情報・経営専攻	2	1	2	1	4	
生活学科　住居・デザイン専攻	3	3	3	3	1	
生活学科　食物栄養専攻	2	3	0	3	1	
幼児教育保育学科	3	5	3	3	10	
特別聴講生	2	3	0	1	1	
科目等履修生	0	1	2	1	0	
合計	24	27	17	21	31	

表４　図書館概論履修登録者数と司書資格取得者数の差の変化

入学年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
「図書館概論」履修登録者	53	22	27	46
司書資格取得者	27	17	21	31
差	26	5	6	15

２．本や読書についての意識調査（1 年生）

（1）　調査の方法

1 年前期に履修する「図書館情報資源概論」では，毎年，受講生の読書にかかわる実態を調査し，授業に役立てている．今年度（2018 年度）は，読書時間や読書量，読書のジャンルや目的，書店についての意識など 8 つの質問項目についての調査票を作成し，司書の授業が始まって間もない 2018 年 5 月 11 日に調査を実施した．54 名の受講生に調査票を配布し 53 名から回答が得られた．

（2）　調査の結果

1）読書の有無と読書時間，読書量

書籍（単行本，文庫本，新書本），週刊誌（漫画誌を含む），月刊誌（季刊，旬刊，半月刊，漫画誌を含む）を読むかどうかについては，「書籍を読む」と答えた学生が 67.9％と最も多く，次に「月刊誌を読む」と答えた学生が 28.3％，「週刊誌を読む」と答えた学生が 18.9％だった．

読書やテレビ，ラジオ，インターネットに費やす，1 日の平均時間については，図 1 の通りである．読書時間は，「30 分～1 時間未満」が 45.3％と最も多く，次に「30 分未満」が 22.6％だが，「読まない」人はいなかった．テレビは，半数の受講生が「1 時間～2 時間未満」と答えており，一日に何か一つの番組を見ているものと思われる．ラジオは 6 割の人が「聴かない」が，26.4％の学生が「30 分未満」聴いている．インターネットは，「1 時間～2 時間未満」と答えた学生が最も多かったが，「3 時間以上」と答えた学生も 24.5％いることがわかった．一方，インターネットをしない学生も 7.5％いた．

1ヵ月に平均何冊の本を読むかという設問については，図 2 の通りである．単行本，文庫・新書，月刊誌，週刊誌，漫画本の中で，1ヵ月平均「0 冊」と答えた学生が多いのは週刊誌であった．学生たちにとって，雑誌，中でも週刊誌はあまり身近なメディアではないようである．単行本と文庫・新書を比べると，「0 冊」と答えた学生は単行本のほうが多く，1 冊以上読んでいる学生は文庫・新書のほうが多かった．「7 冊以上」と答えた学生が多いのはやは

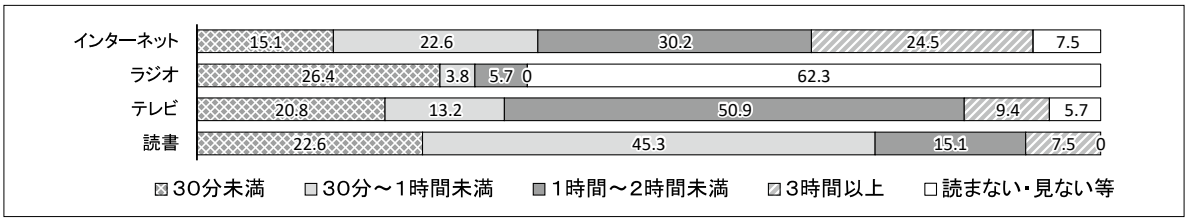

図１．読書，テレビ，ラジオ，インターネットに費やす一日平均時間（％）

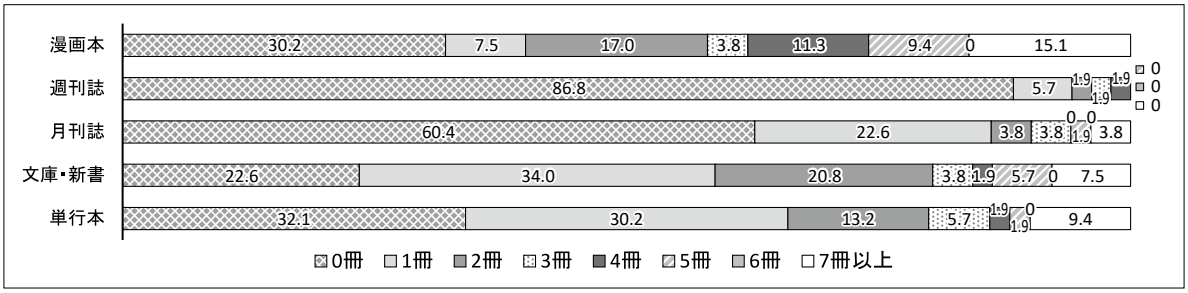

図２．1ヵ月に読む書籍，雑誌の平均冊数（％）

り漫画本だが，「0 冊」と答えた学生が 30.2％いることもわかり，誰もが日常的に漫画を読むわけではないことが推測される．

また，ビデオ，DVD，CD を 1ヵ月平均何本利用するのかをきくと，「1～2 本」と答えた学生が 32.1％と最も多く，「7～10 本」と答えた学生，さらには「16 本以上」と答えた学生も若干名いた（図 3）．ビデオ，DVD，CD の利用が「0 本」と答えた学生は 28.3％で，単行本を「0 冊」と答えた 32.1％よりやや低い程度であった．

2）読書のジャンル，意識，目的

読む本のジャンルについては，図 4 の通りである．「日本の小説」が 75.5％と最も多く，次いで「児童書・絵本」26.4％，「ノンフィクション」24.5％，「趣味・スポーツ」22.6％，「暮らし・料理・育児」20.8％と続く．学科・専攻の学びとも関連していると思われるが，「政治」は 1.9％と最も少なかった．しかし，本を読むことは大切だと思うかという設問に対しては，75.5％の学生が「大切だ」と答えており，「ある程度大切だ」と答えた学生 22.6％と合わせると，ほぼすべての学生が大切だと思っていることがわかった．「大切ではない」と答えた学生は 0％であり，司書科目の受講生は本や読書への思いが強いことがわかる．

本を読む目的については，図 5 の通りである．8 割を超える学生が「楽しいから」と答えており，「勉強や仕事のため」を含め他の理由を選んだ学生は少なかった．大学入学後すぐに実施したためか，あるいは，読書と勉学を結びつける発想がないのか，楽しみのための読書というイメージが強く，読書を楽しんでいる読書好きの学生が多いことがうかがえる．

3）購入方法，書店に対する意識

本や雑誌の購入方法は，大型書店が最も多く，75.5％とほぼすべての学生が選択していた（図 6）．次に，「小規模な書店」が 45.5％と続き，大規模な書店以外の地域の書店も利用していることがわかる．購入方法を使い分けている学生もいるかもしれないが，「スーパーマーケット」や「駅の売店」を

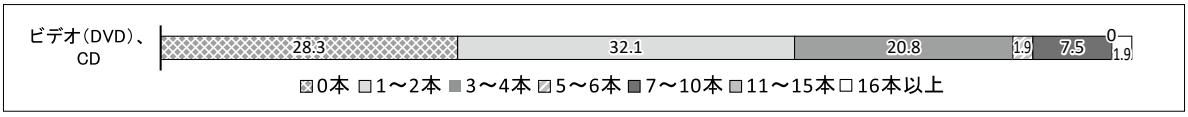

図３． 1ヵ月に利用するビデオ（DVD），CD の平均本数（%）

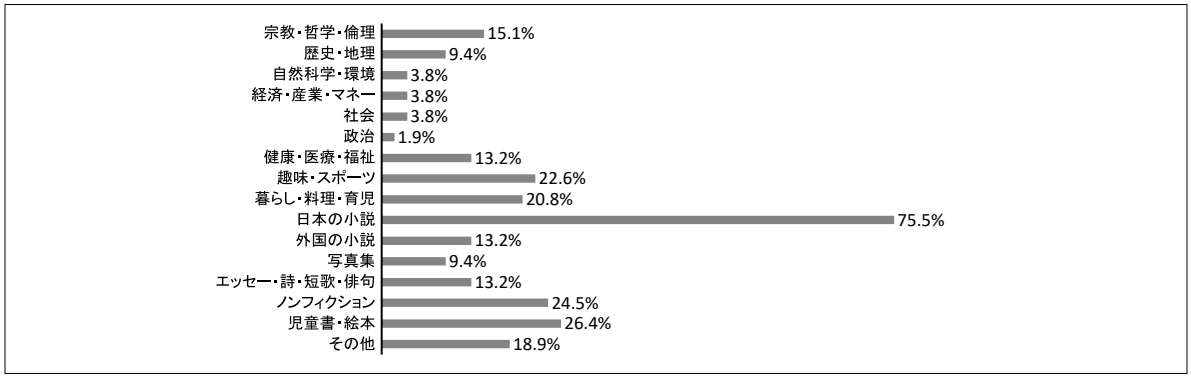

図４． 読む本のジャンル（複数回答可）

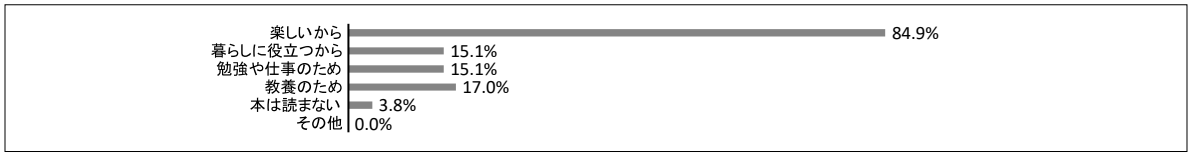

図５． 本を読む目的（複数回答可）

利用している学生はいなかった．コンビニを利用している学生がわずかにいる程度である．また，インターネット書店を利用している学生もおり，この割合は今後増加するかもしれない．

大型書店やインターネット書店の利用が増える中，小規模な書店の廃業が増えている．学生たちに，そうした町の小さな書店が無くなることをどう思うか聞くと，「身近な小さな書店もあってほしい」と答えた人が圧倒的に多く，84.9％だった（図 7）．

一方，書店に求めるものを聞くと，「品揃え」と答えた学生が 90.6％であった（図 8）．身近な書店を望む声もある一方で，実際に欲しい本を購入することを考えると，「品揃え」や「価格の安さ」，「在庫が分かる検索システム」など，小規模な書店では難しい条件が上位に挙がっている．小規模な書店については，心情的にはなくなってほしくないが，便利で魅力的に感じるサービスには負けてしまうという矛盾した思いがあるのだろう．

3．司書課程受講生の意識調査（全受講生）

（1）　調査の方法

受講生の意識を調査するにあたり，全国規模で行われ，司書資格の取得理由，図書館や司書についてのイメージなど総合的に調査した LIPER 調査[1)]を参考にした．今回，短期大学での調査であることや，司書教諭資格科目の開設が平成 29 年度入学生のカリキュラムまでであることなどを鑑み，LIPER 調査の調査票のうち，「司書教諭」の記述を削除するなど変更したが，そのほかの項目はそのまま使用した．

鳥取短期大学では，先述の通り，ほぼすべての受講生が 2 年間での単位取得をめざして学んでいる．1 年生の終わり頃には就職活動を始める学生も多く，2 年生前期には卒業後の進路が決まっている学生もいる．そのため，1，2 年生双方に調査を行い比較することで，1 年間の学びの影響がみられないか，また，1 年次の状態と 2 年次に進路が明確になった状態では司書の資格取得への意識に違いがあるのか検討してみたい．もちろん学年や集団が異なれば

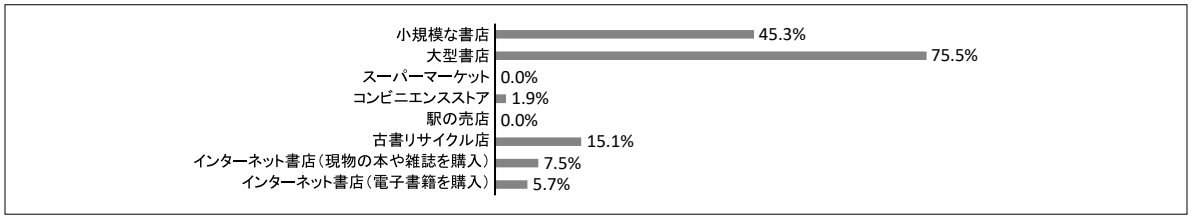

図 6．本や雑誌の購入方法（複数回答可）

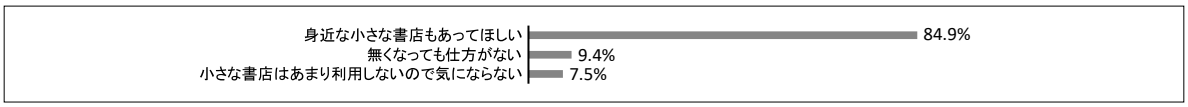

図 7．町の小さな書店が無くなることをどう思うか

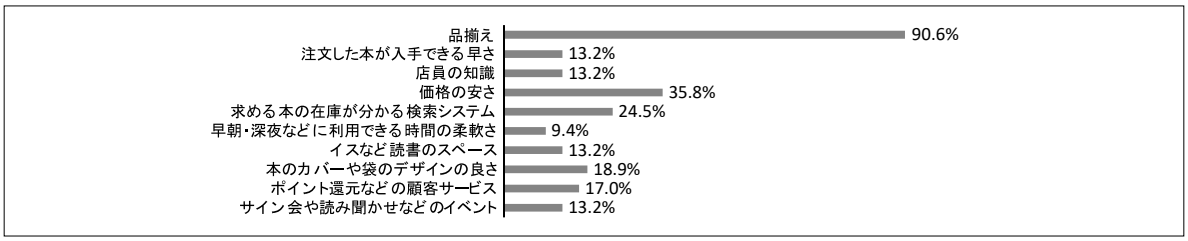

図 8．書店に求めるもの（複数回答可）

結果も違って当然であるが，大まかな傾向がみえてくるのではないだろうか.

調査は，2018 年 8 月 11 日の集中講義において実施した．1 年生は「図書・図書館史」の受講生 48 名を対象にし，2 年生は「情報資源組織論」の受講生 38 名を対象にした．結果，どちらも全員から調査票を回収し，合わせて 86 名の回答が得られた.

（2） 調査の結果

1）回答者の属性

鳥取短期大学司書課程の受講生の学科・専攻については，表 2 を参考にしてほしい．例年，国際文化交流学科の学生が多く，学科が重視するコミュニケーションの学びと関連付けて司書について学んでいる．8 月の集中講義の時点では，1 年生 48 名の内訳は，国際文化交流学科 17 名（35.4%），情報・経営専攻 6 名（12.5 %），住居・デザイン専攻 5 名（10.4%），食物栄養専攻 5 名（10.4%），幼児教育保育学科 13 名 (27.1%), 科目等履修生 2 名 (4.2%) だった．2 年生 38 名の内訳は，国際文化交流学科 12 名（31.6%），情報・経営専攻 3 名（7.9%），住居・デザイン専攻 2 名 (5.3%), 食物栄養専攻 6 名 (15.8%), 幼児教育保育学科 11 名（28.9%），特別聴講生 2 名（5.3%），科目等履修生 2 名（5.3%）だった.

受講生の性別は，1 年生が男性 7 名（14.6%），女性 41 名 (85.4%) に対し，2 年生は男性 3 名 (7.9%), 女性 35 名（92.1 %）と女性が多い．本学の司書課程では例年，女性の履修者が 8 割から 9 割程度を占める傾向にあり，年度によっては履修者が女性だけというときもある．受講生の年齢は，ほとんどが 18，19 歳（66.3 %）や 20 代（30.2 %）だが，30 代（2.3%）や 60 代（1.2%）の人もいる.

2）資格を取得する理由

資格取得の理由として，最も多かったのは「図書館が好きだから」(22.1 %)，次に「短大（大学）で勉強する以上，何でもいいから資格の一つくらいは取ろうと思ったから」(20.9 %)，「司書資格に限らず何か資格を持っていると就職に有利だから」（16.3%）だった.

LIPER 調査で 26.9 % と最も多かった理由「図書館で働きたいから」を選んだ学生は 9.3 % だった．短大では明確に司書をめざすよりも，「何か資格を」や「就職に有利」という気持ちが強いことがわかる．また，LIPER 調査では 4.7 % と回答した人が少ない理由「親や高校時代の先生に勧められたから」を選んだ学生が 14 % と比較的多かった.

表 5　司書資格を取得する理由（%）

	全学生	1 年生	2 年生
親や高校時代の先生に勧められた	14.0	18.8	7.9
何でもいいから資格の一つくらいは	20.9	14.6	28.9
図書館で働きたい	9.3	8.3	10.5
かっこいい図書館員をみて憧れた	3.5	4.2	2.6
司書資格を持っていると就職に有利	4.7	2.1	7.9
何か資格を持っていると就職に有利	16.3	18.8	13.2
情報を扱うための技術が身につく	0	0	0
図書館が好き	22.1	22.9	21.1
その他	9.3	10.4	7.9

1 年生と 2 年生を比べると表 5 の通りである.「親や高校時代の先生に勧められたから」を選んだのは 1 年生が多く，2 年生では半数以下に減少している．学ぶにつれて「勧められた」以外の目的意識を自覚するようになるのか，あるいは「勧められた」という意識では授業についていけずドロップアウトすることになるのだろうと思われる．2 年生では「何でもいいから資格の一つくらいは」と考える人が増えており，資格取得それ自体が目的になっていることがわかる．短大の 2 年生になると，調査を行った 8 月には，ほとんどの学生は進路が決まっているか，

進路の方向性が明確になっている．司書以外の進路を選択した学生にとっては，司書を学ぶ理由が積極的に見出しにくいのかもしれない．

3）資格取得を考えた時期

資格取得を考えた時期は，「高校生の頃から」が最も多く（48.8%），LIPER 調査では「大学入学後」が高かった（45.5%）のに対し，早い時期に考えていることがわかる．ただし，資格取得の理由は，自発的に考えた学生だけでなく周囲の勧めから考えるようになった学生もいるだろう．また，表 6 のように，1 年生には「中学生から」考えた人も多かった．

表 6　司書資格を考えた時期（%）

	全学生	1 年生	2 年生
短大（大学）入学後	33.7	29.2	39.5
高校生の頃から	48.8	50.0	47.4
中学生の頃から	9.3	12.5	5.3
小学生の頃から	2.3	2.1	2.6
その他	5.8	6.3	5.3

4）司書以外の資格取得

司書以外にどのような資格取得を考えているかという質問について，本学で取得できる資格をすべて選択肢に挙げると，履修者の多い国際文化交流学科や幼児教育保育学科で取得できる資格，ビジネス実務士（29.1%），保育士（27.9%），幼稚園教諭（29.1%）を選んだ学生が多かった．一方で，一つも選んでいない学生も何人かおり，司書の資格取得だけに集中している学生もいることがわかった．

5）図書館の利用体験

公共図書館，学校図書館，大学図書館の利用経験，さらに文庫，読み聞かせ，図書委員，図書館での体験学習，図書館ボランティアといった本や読書にかかわる経験についてたずねると，表 7 の結果となった．ほとんどの学生が図書館を利用したことがあり，LIPER 調査に比べ，読み聞かせや体験学習の経験が高いようである．（LIPER 調査の「読み聞かせ」は平均 0.93，「体験学習」は平均 0.41 だった）

また，本が好きか聞くと，9 割の学生が「とても好き」か「やや好き」を選んでいた．前掲の読書調査の結果にあるように読書好きな学生が多い．

図書館の利用体験や本に対する嗜好が司書資格に対する態度や意欲に影響を与えているかという質問にも，8 割の学生が「とても思う」か「やや思う」を選択していた．

表 7　図書館等の利用体験（選択肢を数値化して平均を算出）

	全学生	1 年生	2 年生
公共図書館利用	2.0	2.0	2.1
学校図書館利用	2.6	2.6	2.6
大学図書館利用	1.9	1.9	1.9
文庫	1.1	1.4	0.8
読み聞かせ	1.9	1.8	1.9
図書委員としての活動	1.7	1.7	1.8
体験学習	1.2	1.1	1.3
図書館ボランティア	0.7	0.7	0.8

0 ＝ない，1 ＝あまりない，2 ＝たまに，3 ＝よく，として数値を平均化

6）図書館，図書館員に対するイメージ

「図書館」という言葉を聞いたとき，思い浮かべる図書館を聞くと，70.9%の学生が「近くの公共図書館」と答えた．1，2 年生を比べると，2 年生のほうが，「かつて通っていた中学や高校の図書館」を選んだ人が多かった（1 年生 16.7 %，2 年生 31.6%）．

また，図書館とはどういう場所であると考えているかを聞くと，「本を借りるところ」と答えた学生が 55.8%と最も多く，続いて「本を読むところ」が 18.6%，「様々な情報を入手するところ」が 16.3%だった．1，2 年生を比べると，2 年生のほうが，「その他」を選んだ学生が多く（1 年生 2.1%，2 年生 10.5%），図書館について学ぶにつれて，自分自身

表８　図書館のイメージ
（選択肢を数値化して平均を算出）

	全学生	１年生	２年生
明るい	1.7	1.9	1.4
静かな	2.8	2.9	2.7
知的な	2.5	2.6	2.5
やすらぐ	2.4	2.5	2.2
開放的な	1.8	1.9	1.8
堅苦しい	1.5	1.3	1.6
清潔な	2.3	2.5	2.2
便利な	2.3	2.4	2.3
ゆったりした	2.4	2.5	2.3
身近な	2.2	2.3	2.0

0 ＝全く思わない，1 ＝あまり思わない，2 ＝やや思う，3 ＝とても思う，として数値を平均化

表９　図書館員のイメージ
（選択肢を数値化して平均を算出）

	全学生	１年生	２年生
明るい	1.7	1.9	1.6
知的な	2.5	2.6	2.4
力持ち	1.3	1.3	1.3
冷静な	2.4	2.5	2.3
陽気な	1.4	1.4	1.4
頼りになる	2.3	2.4	2.3
社交的な	1.9	2.0	1.8
几帳面な	2.2	2.3	2.1
静かな	2.4	2.5	2.3
不親切な	0.6	0.5	0.8

0 ＝全く思わない，1 ＝あまり思わない，2 ＝やや思う，3 ＝とても思う，として数値を平均化

のイメージが明確になっていくのだろうと思われる．

図書館のイメージについて，表８にあるように10種類の形容詞があてはまるかたずねた．0= 全く思わない，1= あまり思わない，2= やや思う，3= とても思うという選択肢を設け，選んだ数値の平均を出した．その結果，「静かな」（平均2.8），「知的な」（平均2.5）だけでなく，「やすらぐ」（平均2.4），「ゆったりした」（平均2.4）といった言葉も上位に挙がった．

「図書館員」という言葉を聞いたとき，思い浮かべる図書館員を聞くと，「近くの公共図書館の職員」が58.1％と最も多く，次に「学校図書館の職員」が30.2％と続いた．「場所」の思い出よりも「人」と接した思い出が強く残るのだろうか．あるいは，資格取得を考えた時期が高校や中学校，小学校の頃からと答えた学生もいることから，学校図書館の職員と接した経験が影響を与えた可能性も考えられる．一方，「大学図書館の職員」を選んだ学生は5.8％と低く，大学図書館を利用していても，あまり職員と接していないことがわかる．

また，図書館員のイメージについて，図書館のイメージをたずねたときと同様に10の形容詞があてはまるかを聞いた．その結果，表９のように，「知的な」（平均2.5），「冷静な」（平均2.4），「静かな」（平均2.4），「頼りになる」（平均2.3）が上位に挙がり，これらのイメージが強いことがわかった．「不親切な」（平均0.6）という形容詞はあてはまらないようだが，「社交的な」（平均1.9）や「明るい」（平均1.7），「陽気な」（平均1.4）というイメージもあまり強くないようだ．とすれば，学生たちにとって，図書館員は，自ら陽気に話しかけたり積極的に関わったりしないが，静かで，冷静に対応する，不親切ではない人というイメージだろうか．

７）どのような知識が得られるか

司書課程を履修することにより，どのような知識が得られるかたずねると，「図書館のサービスについての知識」89.5％，「本の分類や整理についての知識」81.4％，「図書館の管理運営についての知識」55.8％が上位に挙がった．これはLIPER調査でも上位に挙がった項目である．1，2年生を比べ，とくに差が明確にあらわれたのは，「情報検索の方法についての知識」だった（1年生12.5％，2年生34.2％）．これは，2年生がすでに「情報サービス論」や「情報サービス演習」を学んでいるからだろう．一方，1年生はあまり情報検索について学ぶという期待感は持っていないといえる．図書館司書につい

表 10　将来の職業との関連（%）

	全学生	1 年生	2 年生
資格を活かして，公共図書館で働きたい	11.6	12.5	10.5
資格を活かして，学校図書館で働きたい	5.8	4.2	7.9
資格を活かして，大学図書館で働きたい	0.0	0.0	0.0
図書館でなくても，少しでも資格や学んだことが活用できる職場で働きたい	38.4	50.0	23.7
資格を持っていることで，就職が有利になればどのような仕事でもよい	14.0	14.6	13.2
地域の文庫活動や図書館ボランティアの形で学んだことを活かしていきたいとは思うが，就職とは直接関係はない	15.1	12.5	18.4
司書資格を取得することは，ボランティア活動とも就職先とも全く関連していない	12.8	6.3	21.1
その他	2.3	0.0	5.3

て何を学ぶのかという体系的な学びのイメージが明確になると，司書の学習に見通しをもって取り組もうとするのかもしれない．

8）将来の職業との関連

「司書資格を取得することについて，将来の職業とどのように結び付けて考えているか」という質問に対して，表 10 のように，LIPER 調査を参考に作成した 8 項目についてたずねた．すると，「少しでも資格や学んだことが活用できる職場で働きたい」と回答した学生が 38.4％と最も多かった．1，2 年生を比べると 1 年生のほうが選んだ学生が多く，司書資格を何かに役立てたいという気持ちが強いようだ．一方，2 年生になると，「全く関連していない」（21.1％），「就職とは直接関係ない」（18.4％）と答える学生が多くなり，司書課程を自分の教養として，あるいは，資格をとることを目的として学んでいる姿があることがわかった．

おわりに

司書資格受講生の意識調査によってとくに次の課題が明確になった．

受講生の多くが本好きで，図書館等の利用経験が豊富であるが，1 年生対象の読書調査に見られるように，読書のジャンルやよく利用するメディアには偏りがみられた．幅広い本やメディア利用についての知識が必要である．

「図書館で働きたい」「司書資格を取りたい」という強い思いをもって履修する人がいる一方，親などから勧められて取得をめざす学生や将来に関係なく自分の教養として学ぶ学生もいる．とくに他者からの勧めで学ぶ学生には，自分自身が学ぶ意義づけを行う機会の提供が必要である．また，2 年生になると，資格取得自体が目的化する傾向がみられるため，意欲的に学べるように，もう一度司書について学ぶ意義を見直すことも重要である．また，図書館も司書も「静か」というイメージが強い．「にぎやかな」図書館，司書のイメージも持てるような工夫が必要である．

学生たちそれぞれの意識を早期に把握し，担当教員で共有しながら授業改善に取り組みたい．

引用・参考文献

1）竹内比呂也ほか「司書・司書教諭資格取得希望学生の意識についての調査」，『2005 年度日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』，専修大学，2005 年 5 月 18 日，pp. 43-46．LIPER（情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究）については，次のサイトを参照．http://old.jslis.jp/liper/index.html